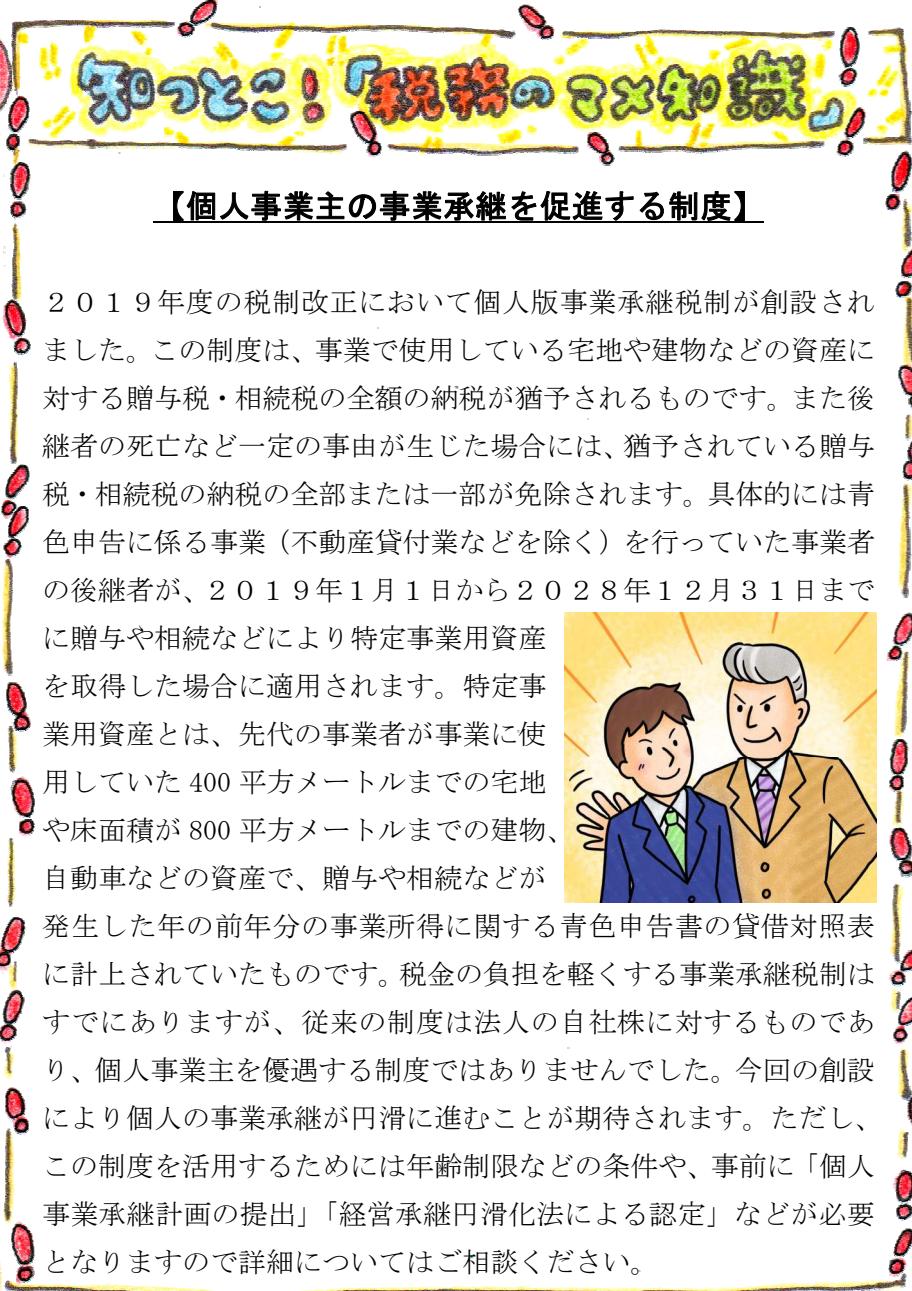


# 木永会計事務所通信

10月号 VOL. 144

20世紀最大の芸術家パブロ・ピカソが生まれたのは1881年10月25日。91年間に約8万点もの作品を残したそうですが、単純計算で1日に2~3作品を制作したことになります。「若くなるには時間がかかる」という名言も残したピカソ。年齢と共にどんどん創作的になり、常に挑戦し続けた人生だったのでしょうか。



# 365日が楽しくてたまらない!「商売のヒント」

## 今月の商売のヒント:【シンプルなごちそう】

優れた経営者の中には、ひそかに茶道の心得のある人が少なくないと聞きます。400年以上も続く究極のおもてなしの心として世界にも知られている茶道。その本質は、亭主(主催する人)が一期一会の精神で正客を



おもてなしすることです。茶道の世界観に経営者としての道を求めるのは、ごく自然なことかもしれません。茶道の創始者ともいえる千利休が説いた茶道の在り方に「利休七則」があります。

一則、茶は服のよきように点(た)て(相手の状況や気持ちを考えながら心を込めて茶を点て) 二則、炭は湯のわくように置き(的確に誠実に準備を行い)

三則、夏は涼しく冬は暖かに(相手が心地良いと感じるようにもてなし)

四則、花は野にあるように(本質を見極め) 五則、刻限は早めに(心にゆとりを持ち) 六則、降らずとも雨の用意(万全に備え) 七則、相客に心せよ(お互いを尊重しあう)



つまり利休七則とは人をもてなすときの心得です。今さらと思った人もいるでしょうか。まさにそんな逸話があります。ある日、弟子が茶の湯の極意を求めてきたので、千利休はこの七則で答えたそうです。すると弟子は「それくらいのことなら私もよく知っています」と言ったそうですが、それに対して千利休は「七則ができるなら、私はあなたの弟子になりましょう」と返したそうです。日本人は古来より「和の心」を大切にしてきました。けれど「相手のため」や「尊重しあう」といったことは、ただ自分を相手に合わせていればいいというものではありません。例えば、炊きたての白いご飯、おみそ汁、お漬け物の組み合わせはシンプルにしてある意味、最高のごちそうです。とはいって、この3つを全て混ぜてしまったら、それぞれの味も組み合わせのバランスも台無しです。ご飯はお茶わんに、おみそ汁はおわんに、お漬け物は小鉢に入れて、それぞれの器がひとつのお膳に収まってこそその「ごちそう」です。大上段に構えなくても、身の回りに今すぐできる小さなことはありませんか。商売は「シンプルなごちそう」でありたいものですね。

## トレンドを斬る3

家族や仲間たちとにぎやかに食べるのではなく、1人で焼肉を楽しむ人が急増しています。近年、登場した「ひとり焼肉」の



専門店ではパーテーションで区切られた席に自分専用の無煙ロースターが1台、好きなメニューを好みのタイミングで焼いて食べるスタイルが好評です。水やおしぼりは席に完備され、タッチパネルで注文し会計で席を立つまで約30分と人件費を抑えたファストフード店仕様ながら、肉の種類や鮮度はこだわるという緩急をつけた戦略で拡大中です。

### 【希望の糸】

東野圭吾の人気加賀シリーズのスピンオフ的な作品です。喫茶店を営む女性が殺され、常連客の男性が容疑者となる。災害で子どもを失った彼の人生を追う若い刑事。その若い刑事の父親の話も重なって「家族」を深く考えさせられる作品です。



### 木永会計事務所

有ブレーン・トラスト

〒861-8003

熊本市北区楠7丁目1-66

電話: 096-337-3600 FAX: 096-337-3601

<http://www.kinaga.co.jp>